

CITATION: O'Connor A, McNamara D, O'Morain CA. Surveillance of gastric intestinal metaplasia for the prevention of gastric cancer *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2013, Issue 9. Art. No.: CD009322. DOI: 10.1002/14651858.CD009322.pub2.
CRG名: Cochrane Upper Gastrointestinal and Pancreatic Diseases Group.

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 6 November 2012
Clib issue No.: N/U: 2013 Issue 9; Update

アブストラクト

背景: 胃腺癌は、世界の癌関連死亡率の第2位を占める。胃腸上皮化生(GIM)は胃の前悪性状態と認識されている。西洋諸国ではGIMを有する患者で最大5例に1例で発癌しているという記載が認められる。GIMから癌に進行するリスクは明らかであるが、既発表のガイドラインおよび報告書では、この病態に対する監視プログラムの有用性および構造について異なった見解が示されている。

目的: 胃腸上皮化生(GIM)を有する患者の内視鏡的または生化学的監視により、異形成および早期胃癌の検出率が増加し、胃癌死亡率が低下するかどうかを検討すること。

検索戦略: 下記の電子的データベースの開設から2012年10月までの検索を実施した。CENTRAL、EMBASE、MEDLINEおよびLILACSである。関連性のある会議の抄録についてもハンドサーチを行った。

選択基準: ランダム化比較試験のみを選択した。

データ収集と分析: 選択基準を満たす研究はなかった。

主な結果: 選択基準を満たす研究はなかった。

レビューアの結論: GIMの監視の有用性に関するランダム化データは認められない。非ランダム化研究で得られた観察データを検討し、ランダム化試験はクリニカル・エビデンスを得るための望ましい計画であるが、関連する倫理的および受入可能性の問題を鑑みると、監視プロトコルおよびヘリコバクター・ピロリ除菌の役割に焦点を当てた、さらなる非ランダム化臨床研究が、主要な臨床的疑問に対処するための実用的な方法であると考えられる。

平易な要約(Plain language summary)

癌発現予防のための胃の前癌状態の追跡

癌予防のために胃の前癌状態を有する患者を追跡するという概念を裏付けるエビデンスが十分にあるかどうかの検討を試みました。こうした追跡は通常、口から挿入したカメラ(内視鏡)によって患者の胃を検査し、胃から小さな組織検体を取り出す(生検)といった方法により実施します。別の追跡方法は、ペプシノーゲンと呼ばれる化学物質を測定する血液検査によるものですが、この手法は若干精度が低く、胃癌の診断については信頼性に欠けます。この手法は生化学的調査として知られています。生物医学的文献データベースおよび会議議事録の抄録を検索し、臨床試験の詳細を得ました。ランダム化比較試験において上記の追跡手法の有用性を証明するような適切なエビデンスは認められませんでした。実施された一部の研究では、この手法をより綿密に調査する価値があることが裏付けられています。

(監訳 柴田 実)

翻訳公開日:2014年 10月 10日

ご注意:この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。